

五二二十四號(十一月一日發行)は、またまた發禁の運命に遭遇した。このツルペ打ちの發禁の彈壓は我が機關紙部をして、任務執行のための、また黨の日常闘争の過程に於ける果敢なるカンパニアの成果を擧げるための積材となる以外の何物でもなかつた。従つて、この發禁、發禁又發禁の彈壓に對して全國の同志諸君をして如何に吾々は政治的自由を獲得しなければならぬかを、ハツキリと意識せしめた。今や『全國大衆新聞を守れ』のスローガンの下に、全國の黨員同志諸君の熱誠なる支援を受けつゝあることを感謝せざるを得ない。

部員、藤野光弘、木村毅、岡田宗司、田所輝明、平野學、松本淳三、岩崎正三郎、猪俣猛

以上は一般的報告であるが、以下簡單に會計報告をする

昭和五年年度機關紙部會計報告

第一期決算報告(昭和五年八月一日から十一月十日迄)

支 出	
印刷費(新聞)	七六九、三三三
送 費	八二、七〇〇
運 送 費	八、八〇〇
編 輯 費	一六、三〇〇
印刷物費	三三、六〇〇

通信費	一八、五五〇
交通費	一七、七〇〇
人件費	二七、九〇〇
原稿紙代	二、二〇〇
新聞保證金(利息)	四二、一〇〇
事務部へ貸出	二二、〇〇〇
合 計	一〇五、一三〇
收 入	
新聞紙代	二八五、五四〇
廣告料	二五、〇〇〇
寄附基金(備前上段發賣)	二七一、四六〇
借 入 金	七八、〇五〇
寄 附 金	三五、〇〇〇
本部から補助	二七三、三四〇
合 計	一〇六八、三九〇
差引繰越額	二七、二六〇

五、事業部報告

部長 平野 學
主任 粕谷 忠雄

三黨合同の結果は黨勢を倍化し、著しく強大にしたが財

務部の報告の如く財政的には可なりの窮乏を招來した。黨の財政的困難は、必然的に事業部の事業も制せられざるを得なかつた。勿論事業部は黨財政の可及的助力に中心を置くべきであり、運動方針は事業の活動なる活動による黨運動資金の提出を命じてゐたが、全然基本的資金なくしては活動は進めないものである。然しそれにも不拘、事業部は黨の財政的困難を克服して以下述べる如く最大限度の事業を敢行した。

事業部は七月十八日の執行委員會に於いて次の人々を部員に任命した。

河野密、淺沼稻次郎、藤野、木村毅、高田和逸

外二名缺員

七月廿八日の部會並に常任會議に於いて、今期の事業部の計劃を決定したがそれは次の如きものであつた。

- 一、黨規約入黨申込書の作成
 - 二、マーク作成
 - 三、プロレタリア繪葉書の作成
 - 四、大衆黨は如何に闘ふか
- パンフレットの作成—

五、黨員日誌の製作
六、大衆年鑑の編輯
これ等の計劃を實行するために、先づ第一に事業部の基金募集を計劃し、寄附金及び色紙短冊の販賣等を行つたが之等に於ては殆んど實績を擧ぐるを得なかつた。なほ九月二十五日木村氏の組織する政治教育協會と協力してインタナショナルの夕べを開催し、資金の提出に努力したが、之れ亦剩餘を得るには到らなかつた。

以上の如く諸種の基金募集の計畫を非常なる努力と努力とを拂つて強行したが殆ど實績を擧ぐるを得ず、部としてはかなりの困難に當面した。然し八月中に於いて入黨申込書二萬枚を作製し、マーク一千個を作り更に九月初め「プロレタリアエハガキ」第一輯を發行した。更に十月下旬「大衆黨は如何に闘ふべきか」一千部を印刷したが官憲の壓迫によつて發賣禁止を喰つた。だがこれ等の壓迫と經濟的困難に屈服することなく、十一月中旬にはかねて豫告の如く『黨員日誌』を編輯發行し、運動の側面的協力のためにつとめたなほ左に會計報告を示せば次の如くである。

事業部決算報告(昭和五年七月廿一日ヨリ十二月十日マデ)